



江別ユネスコ協会事務局だより 2014年7月25日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町24-6 教育委員会生涯学習課内(担当伊藤☎381-1069)

「屯田兵の装備した兵器について」～学習会をひらきます

屯田兵制度の目的のひとつとして「北辺防備」がありますが、外国の侵略に対して開拓使はどのような危惧を持っていたのでしょうか。清国、英国、ドイツ、フランス等の実情を考えれば、意識すべきはロシア帝国くらいだといわれます。当時ロシアは樺太・千島の領有に熱心でしたが、沿海州で北海道侵攻の大軍を編成するのはコスト的に無理があり、欧米諸国の反発を考えるとリスクが大き過ぎるようです。この時期の極東情勢を分析して明治政府は、屯田兵の任務を設定したに違いありません。今回、江口憲人（えぐちかずひと）先生にお願いして、北海道の歴史遺産ともいえる屯田兵制度を国際的な切り口から解説して頂きます。江口先生は北大の大学院修士課程を修了後、全道の高校で主に世界史を教えられました。防衛と開拓に貢献した屯田兵の実像を学習したいと思います。学習会は8月30日（土）13：30より、野幌公民館2階・研修室5号にて開催します。

2015年度の北海道ユネスコ大会は室蘭市で開催されます

北海道ユネスコ連絡協議会の2014年度第2回常任理事会が7月21日に札幌市「かでの2・7」で開催され、懸案の2015年度の第49回北海道ユネスコ大会の開催地を室蘭市にきめました。主管の室蘭ユネスコ協会は近年ユネスコスクールとの連携に力を入れ、主に西胆振地区の高校生の国際理解・ボランティア活動の面で成果をあげています。なお、2016年度の開催地は恵庭市が有力です。すでにお知らせしたとおり、本年度の全道大会は10月25日に札幌市「かでの2・7」で開催されます。

「只見」と「南アルプス」がユネスコ・エコパークに登録されました

2014年6月10日からスウェーデン国で開催されていた「人間と生物圏（MAB）計画事業」の第26回国際調整理事会において、日本政府が推薦していた「只見」と「南アルプス」が6月11日（現地時間）に、MAB計画に基づく「生物圏保存地域（国内呼称：ユネスコエコパーク）」として登録されました。これで日本からの登録は7か所となりました。

生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）とは、ユネスコが1976年に定めた「人間と生物圏（MAB）計画」に基づいて認定された特別地域のことで、①最も重要な核心地域、②影響を及ぼす周辺の緩衝地域、③その外郭の社会・経済の発展が図られる移行地域（トランジション・ゾーン）、という3段階の地域区分を設けて生物圏を保存します。世界自然遺産が自然環境の保護・保全を目的としているのに対し、ユネスコエコパークは生態系の保全と持続可能な利用・活用の調和を目的としていて、自然と人間社会の共生に重点が置かれています。日本にある7か所はつぎのとおりです。

- ①屋久島（鹿児島県） ②大台ヶ原・大峰山（奈良県・三重県） ③白山（石川県・福井県・富山県・岐阜県）
- ④志賀高原（長野県・群馬県） ⑤綾（あや＝宮崎県） ⑥只見（福島県）
- ⑦南アルプス（長野県・山梨県・静岡県）

世界では117か国に612か所（2013年5月現在）のユネスコエコパークが登録されています。

「使用済み切手」と「書き損じハガキ」の回収運動にご協力を！

当協会では創立当初より「使用済み切手」の回収運動を行い、発展途上国の結核予防など緊急医療活動に協力してきました。また「書き損じハガキ」の回収運動を実施して、日ユ連盟の「世界寺子屋運動」の資金として役立てています。今後とも皆様のご協力をお願いします。切手もハガキも、枚数の多少にこだわらず、集めた分は当協会の事務局までお届けくださるようお願いします。

